

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K04408

研究課題名(和文) 地域資源を活用した美術科鑑賞題材の開発研究

研究課題名(英文) The Study which Developing Appreciation Subjects for Art Education from utilize Local Resources.

研究代表者

喜多村 徹雄 (Kitamura, Tetsuo)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：60466688

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間を通して地域資源を活用した5つの題材を開発し、小学校で1つの実践を実施した結果、研究の目的に照らして次のことが明らかになった。

(1) 題材の主題および造形力によって美術館と同等の鑑賞体験は得られる。美術館外での公開は、場所自体が地域資源かつ学習環境になるため学習に付加価値を与える。(2) 鑑賞者は地域資源を体験的に学習する。(3) 鑑賞者の行動は変容する。鑑賞者は、当事者性の獲得ならびに世代間交流を通して社会化する傾向にある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

造形探求的美術運動が多い近代美術を取り上げる傾向にある鑑賞活動では、一般化された近代の造形理論や事象の学習に適している一方で、児童生徒の実態や地域の特性と離れていることもあり、学習者の当事者性を欠く場合がある。本研究では地域資源を活用した題材を開発し、これを鑑賞することで学習者の当事者性を高めることが確認できた。また、図画工作科・美術科に地域資源を活用した題材開発例を加えることで貢献したと考える。

研究成果の概要(英文)：This study has developed five Appreciation Subjects from local resources and one practice was conducted at elementary school. It has gotten three results are below,

(1) To appreciate at the site, where outside museum as local resources and the learning environment, enhance added value for leaning. (2) The learner learns the local resources experimentally. (3) The behavior of learner change. The learner is tendency to enhance two abilities. One is one's involvement in contents of learning, Second is social nature through learn interaction over generations.

研究分野：美術教育 現代美術

キーワード：地域資源 現代美術 美術科教育 鑑賞

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成10年改訂の学習指導要領から、地域の実態に応じて美術館などを利用したり連携をはかったりすることなどの配慮が求められて以降、大学や美術館、教育現場が協力・連携しながら鑑賞教育・方法の研究を進められ、鑑賞学習支援システム・プログラム構築の研究やマルチメディアを利用した鑑賞支援学習のためのデジタルコンテンツの開発などが行なわれるとともに、学校教員を対象とした講習会も増加の傾向にある。しかしながら、学校と美術館連携による鑑賞授業が一般化しているわけではなく、移動可能圏内に美術館がないなどの地理的条件によっては成果の利用や連携が困難な地域も多く存在する。このような地域間格差を是正するための研究は、ほぼ行われていないのが実情である。

(2) 義務教育課程の学習で重要なのは人間の社会化なので、学習を通して児童生徒の興味関心が社会（居住地域や同時代）に向くことが望まれる。指導要領の共通事項に準拠し造形要素に着目した鑑賞活動では、造形探求的美術運動が多い近代美術を取り上げる傾向にあり、時代の社会性が反映された現代時代の表現が題材になることは少ない。一般化された近代の造形理論や事象は、児童生徒が暮らす地域の特性や実態を欠く場合もみられ、こういった題材による学習は、学習者の当事者性を欠く場合がある。

2. 研究の目的

地域の実態に応じて美術館などの利用・連携をはかることが学習指導要領で掲げられたことで様々な鑑賞プログラムやシステムの構築が研究されているが、美術館を利用できない地理的要因を抱えた地域には、成果が還元されていないのが現状である。本研究は、「など」に立脚しつつ、地域で開催されるアートイベントを含む地域資源を活用して、実物、地域性、同時代性を備えた鑑賞題材を開発する。開発した題材を用いて、美術館を利用して得られるのと同程度の鑑賞の機会を実現する方法を研究することである。具体的には次の3つのことを明らかにする。

(1) 地域資源を活用することで社会教育施設である美術館と同程度の鑑賞の機会が創出できるのか。

(2) 地域をテーマとする今日的表現を鑑賞題材とすることで学習者は美術を通して地域を学習することができるのか。

(3) 地域をテーマとする美術作品を鑑賞することで学習者は社会化するのか。

3. 研究の方法

研究方法としては、具体的には(1)全国各地で開催されている地域アートイベントの現地調査、(2)地域資源を主題、あるいは活用した現代美術表現の現地調査、(3)地域資源を主題、あるいは活用した現代美術作品の制作および公開、(4)これに対する鑑賞者の反応の検討、(5)義務教育課程教諭からの検証を踏まえて、美術および図画工作科題材を開発し、実践をおこなった。

4. 研究成果

研究期間を通して5つの題材を開発し、小学校で1つの実践を実施した結果、研究の目的に照らして次のことが明らかになった。

(1) 鑑賞対象となった作品の主題および造形力によって美術館で鑑賞するのと同程度の鑑賞体験を得られる。美術館と異なる場所で公開することで鑑賞機会は創出されるが、場所自体が地域資源であると同時に学習環境になり、それは美術館とは異なる付加価値を学習に与える。

(2) 鑑賞者は作品をとおして題材となった地域資源を体験的に学習する。ただし、知識の側面が強い。

(3) 鑑賞体験をとおして鑑賞者の行動は変容する。行動変容は、鑑賞者からの資料提供や語り部化のように当事者性の獲得の他、学習者の学齢を超えた学び合い（学習態度の変容）が誘発され、世代間交流をとおして社会化される側面がある。

学校教育において(2)および(3)の効果を高めるのは表現題材が適していることが新たな知見として得られた。

次に、開発した題材および実践の概要を示す。

①《サキオトテーとシリヤサツテのハザをサルク》
NPO 法人天山ものづくり塾と佐賀大学芸術地域デザイン学部が共催する「第15回 天山アートフェスタ in 小城」(佐賀県小城市／平成28年7月22日～24日)で、小城市の歴史を地域資源にした現代美術作品を制作して公開した。これは町史や関連文献を調査して明治初期から昭和期までの町の変遷を小説ベースで表現した作品であり、鑑賞行為を通して現在の町の景色に歴史を重ねることができるといえる。鑑賞者からは「町史は読む気になれないが、これならば面白く知ることができる」「改めて我々がなすべきことを考えさせられ



図1:《サキオトテーとシリヤサツテのハザをサルク》

た」という意見が寄せられた他、文献には記録されていない事実を詳細に教えてくれる鑑賞者も複数名いた。このことから当事者は高められたことが明らかになった。

②《記憶を記録する》商業施設を市立美術館にコンバートしたアーツ前橋で開催された「前橋の美術 2017」（群馬県前橋市／平成 29 年 2 月 3 日～2 月 26 日）に、商業施設だった頃の歴史を調査した作品を制作して公開した。現在の景色に歴史を重ねることが出来る点で小城と同傾向の題材である。当時を知る鑑賞者には、地域の出来事を他者に伝える機会となり、知らない鑑賞者には知る機会となった。また、子どもが保護者や祖父母の記憶を伝達するなど、鑑賞者間での記憶の共有や会話が生まれ、コミュニケーションが誘発された。また、後日、文献には記録されていない事実を詳細に教えてくれる鑑賞者も複数名いた。地域資源を活用した現代美術作品（鑑賞題材）を当該地域で鑑賞することを通して、地域を学習することが可能であること示したことである。また、モチーフの内容が鑑賞者を当事者へと変容させ、情報共有を元にした鑑賞者間でのコミュニケーションが発生したことは重要である。



図 2 《記憶を記録する》

③《65 札に 1 札を加える。》《足元の屋根（陸軍岩鼻火薬製造所第 180 号家【捏和室】）》群馬県立近代美術館で開催された「群馬の美術 2017—地域社会における現代美術の居場所」（群馬県高崎市／平成 29 年 4 月 22 日～6 月 25 日）に、群馬の森公園にあった通称「陸軍岩鼻火薬製造所」に関連する出来事を題材にした現代美術作品を制作して公開した。群馬の森公園は、陸軍岩鼻火薬製造所の跡地に整備され、当該美術館も敷地内に建設されている。町史や当時の新聞をはじめ関連文献の調査によって確認した複数回の火薬製造所の爆発事故や、現地調査で確認した遺構や供養札などに着想を得た題材である。観賞行為を通して、戦時について考える契機を創出した。文献によれば爆発事故の被害は周辺地域に及び、現在も同地に建つ小学校も被害があったとされる。当該小学校では、伝え聞く当時のことが話題に上った他、地域新聞のコラムに当該作品などが紹介され、「戦争の歴史を経て生まれた私たちが学び、記憶し続けるべきことは何か」と問いかけた。また、簡単にはあるが、本作品は美術専門誌にも紹介された。



図 3 《65 札に 1 札を加える。》

④《「竹林」と「満月」—あなたたちがつくった空間で、あなたたちが見たかったことについて考えるための、私たちの工夫—》アーツ前橋および前橋市中央市街地で開催された「前橋の美術 2020」（群馬県前橋市／令和 2 年 2 月 8 日～3 月 15 日：コロナ禍により 3 月 4 日に閉幕）に、1954（昭 29）年から 1970（昭 45）年頃まで中央通り商店街で運営されていたギャラリーの記憶をモチーフにした現代美術作品を制作して公開した。同ギャラリーは当初から店舗 2 階に開設されており、現在は倉庫として使われていた。この場所を一時的にはあるが、約 50 年ぶりに展示空間に設え、同店舗に残された 2 幅の掛け軸をとおして、ギャラリーとそれを運営した現社長の祖父および父の人間模様が主題である。これまでと同傾向の題材だが、個人史に着目した点が異なる。場所を提供してくれた社長をはじめ、複数名の語り部が現れた。これまでと同様に会期中に資料を提供する鑑賞者が現れた。鑑賞者の行動変容が確認できた事例である。



図 4 《「竹林」と「満月」》

⑤《群馬県富岡市立小学校での実践》当該地域で江戸時代に出土したオオツノシカの骨が、当時は龍のツノだと考えられていたという史実に着目して開発した題材である（群馬県富岡市／令和 2 年 2 月 19 日～27 日／全 4 時限）。児童が訪れたことがある当該地域 5 箇所での収集した物を、収集時の様子も含めて鑑賞活動を行なった。その後、児童が興味を抱いた収集物（収集場所）にもとづいて 5 班に別れ、収集した場所と収集物の関係を考慮しつつイメージを膨らませ、粘土等をつかって復元（創造）をする造形活動をおこなった。結果、場所について考えることができたともに、イメージを膨らませて造形活動に取り組むことができた。また、次時までに保護者と場所について話をするように促したが、活発な意見交換をおこなった児童は少なかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 喜多村徹雄、茂木一司、手塚千尋、菅野剛、新井洋美、高橋初穂、深須砂里、園田樹里、内田望美、塩川岳	4. 巻 第33号
2. 論文標題 フラットホーム@中之条ピエンナーレ2015 群大美術+同特別支援学校×アーティストによるアートカフェとワークショップの実践	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 45-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多村徹雄	4. 巻 第35号
2. 論文標題 中学校美術科における発想を高めるための表現活動に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 103-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 喜多村徹雄、手塚千尋、塩川岳、深須砂里
2. 発表標題 フラットホーム@中之条ピエンナーレ2015 群大美術+同特別支援学校×アーティストによるアートカフェとワークショップの実践
3. 学会等名 美術科教育学会 第38回大阪大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

開発した題材の公的発表

1. 《サキオトデーとシリヤサッテのハザをサルク》メディアミックス、第15回 天山アートフェスタin小城（小柳酒造本蔵 / 佐賀県小城市）、2016年7月22日～24日
2. 《記憶を記録する》インスタレーション、前橋の美術2017（アーツ前橋 / 群馬県前橋市）2017年2月3日～2月26日
3. 《65札に1札を加える。》銅板・木・カットイングシート、群馬の美術2017 - 地域社会における現代美術の居場所（群馬県立近代美術館 / 群馬県高崎市）2017年4月22日～6月25日
4. 《「竹林」と「満月」 - あなたたちがつくった空間で、あなたたちが見たかったことについて考えるための、私たちの工夫 - 》掛け軸・展示什器・テキスト他、前橋の美術2020（鈴木ストア / 群馬県前橋市）2020年2月8日～3月15日：コロナ禍により3月4日に閉幕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----